



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

滋賀県

景況調査結果報告書

2019年度第4四半期
(2020年1～3月)

目次

I.調査結果.....	2
II.今期の状況.....	3
III.規模別・業種別.....	9
IV.回答企業のコメント.....	23

滋賀県商工観光労働部商工政策課

I. 調査結果



【調査概要】

滋賀県では、四半期毎に県内の景気動向の把握を目的として景況調査を実施しております。今期(2020年1～3月期)の調査結果の概要は次のとおりです。

また、滋賀県景況調査報告書については、滋賀県公式ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/syougyou/300168.html>

- ・今期の県内企業の景況は、業況、生産、売上、経常利益の各DIはマイナス幅が拡大した。
雇用の水準DIはマイナス幅が縮小し、不足感が弱まった。
- ・来期(2020年4～6月期)の見通しについては、業況、売上、経常利益の各DIはマイナス幅が拡大する見通し。生産DIはマイナス幅が縮小する見通し。
雇用の水準DIについてはマイナス幅が拡大し、不足感が強まる見通し。

【調査方法】

- ①調査期間……2020年2月
- ②調査企業数……県内の事業所(750社)
- ③調査方法……郵送アンケート
- ④回答企業数……370社(回答率49.3%)

(社)

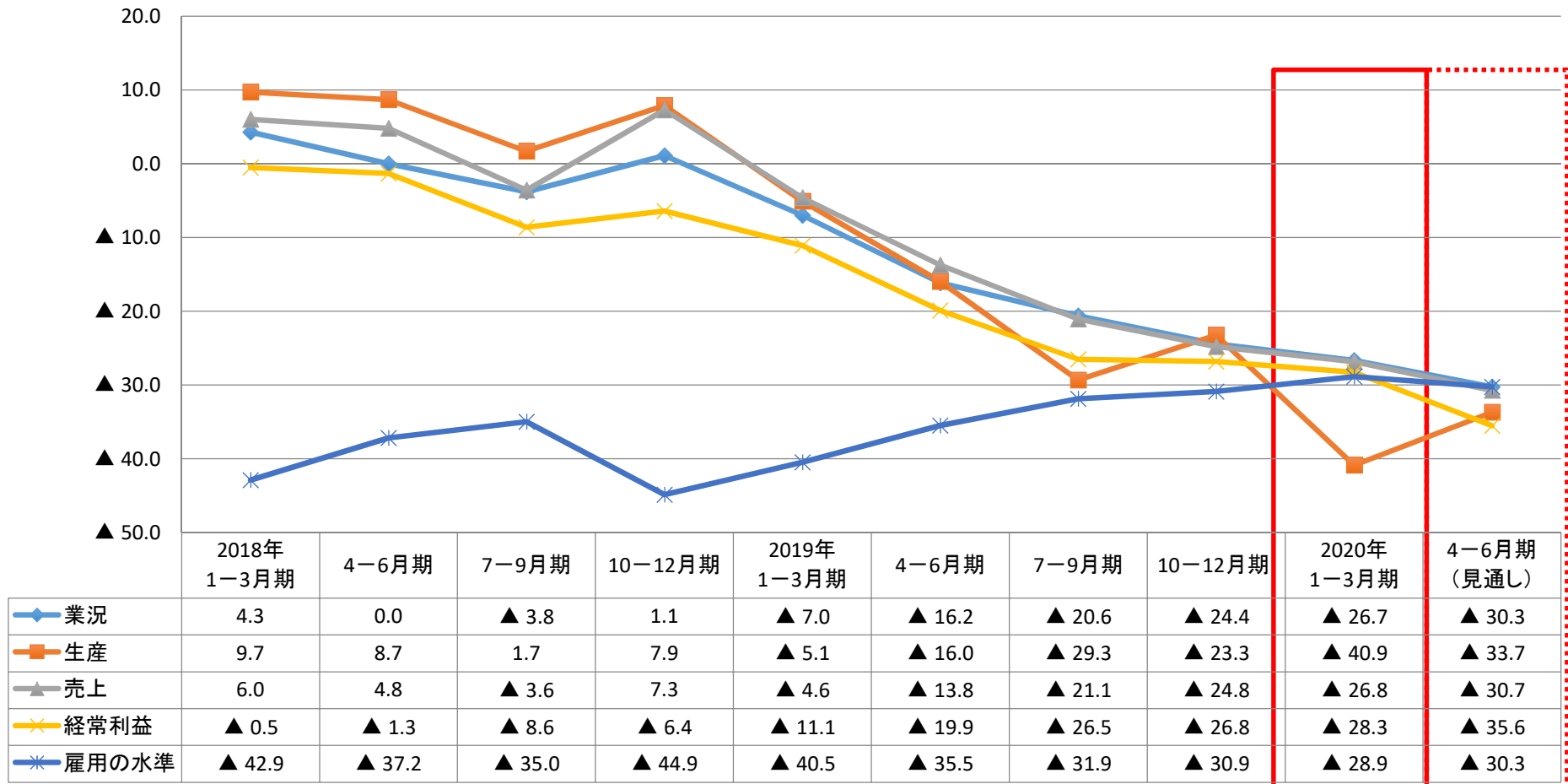
	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
大企業	24	3	1	5	16	49
中小企業	154	36	15	33	83	321
合計	178	39	16	38	99	370
産業別比率	48.1%	10.5%	4.3%	10.3%	26.8%	

※本調査でのDI(ディフュージョン・インデックス):「増加(好転・上昇・過剰等)」と回答した事業所数の構成比から、「減少(悪化・低下・不足等)」と回答した事業所数の構成比を差し引いた値。

今期(実績)の業況、生産、売上、経常利益、在庫数量の各DIは前年同期と比較。資金繰りDIは3か月前と比較。採算の水準、引合、雇用の水準の各DIは今期水準の軸を用いて算出。

来期の見通しについては、業況、生産、売上、経常利益、在庫数量の各DIは3か月後の前年同期と比較。資金繰りDIは3か月後水準の軸を用いて算出。採算の水準、引合、雇用の水準DIは3か月後水準の軸を用いて算出。

Ⅱ.各種DIの動き(実績)と来期の見通し



今期(2020年1~3月期)の県内企業の景況(前期(2019年10~12月期)との比較)

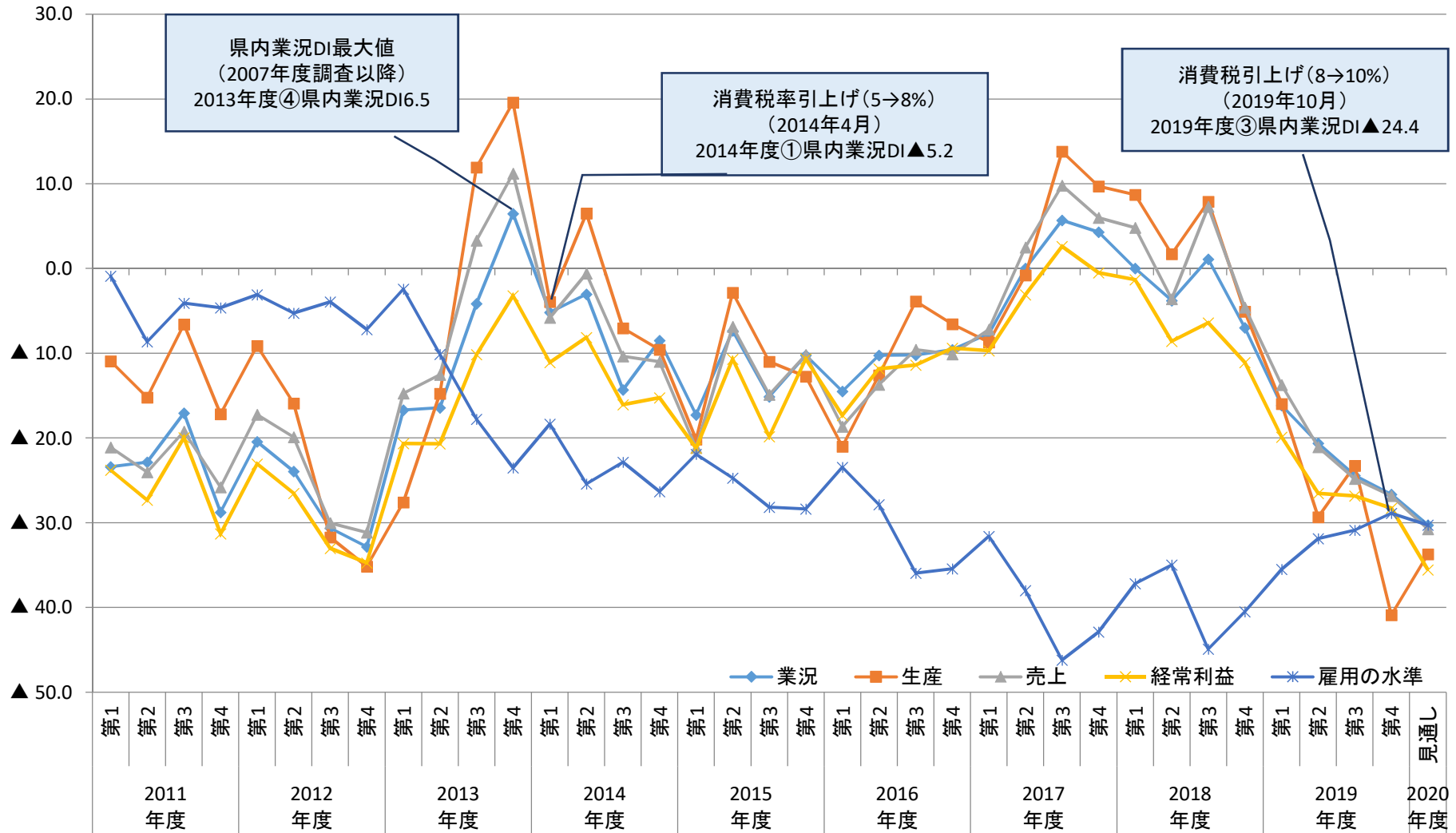
- ・業況、生産、売上、経常利益の各DI: マイナス幅が拡大した。
- ・雇用の水準DI: マイナス幅が縮小し、不足感が弱まった。

来期(2020年4~6月期)の見通し

- ・業況、売上、経常利益の各DI: マイナス幅が拡大する見通し。
- ・生産DI: マイナス幅が縮小する見通し。
- ・雇用の水準DI: マイナス幅が拡大し、不足感が強まる見通し。

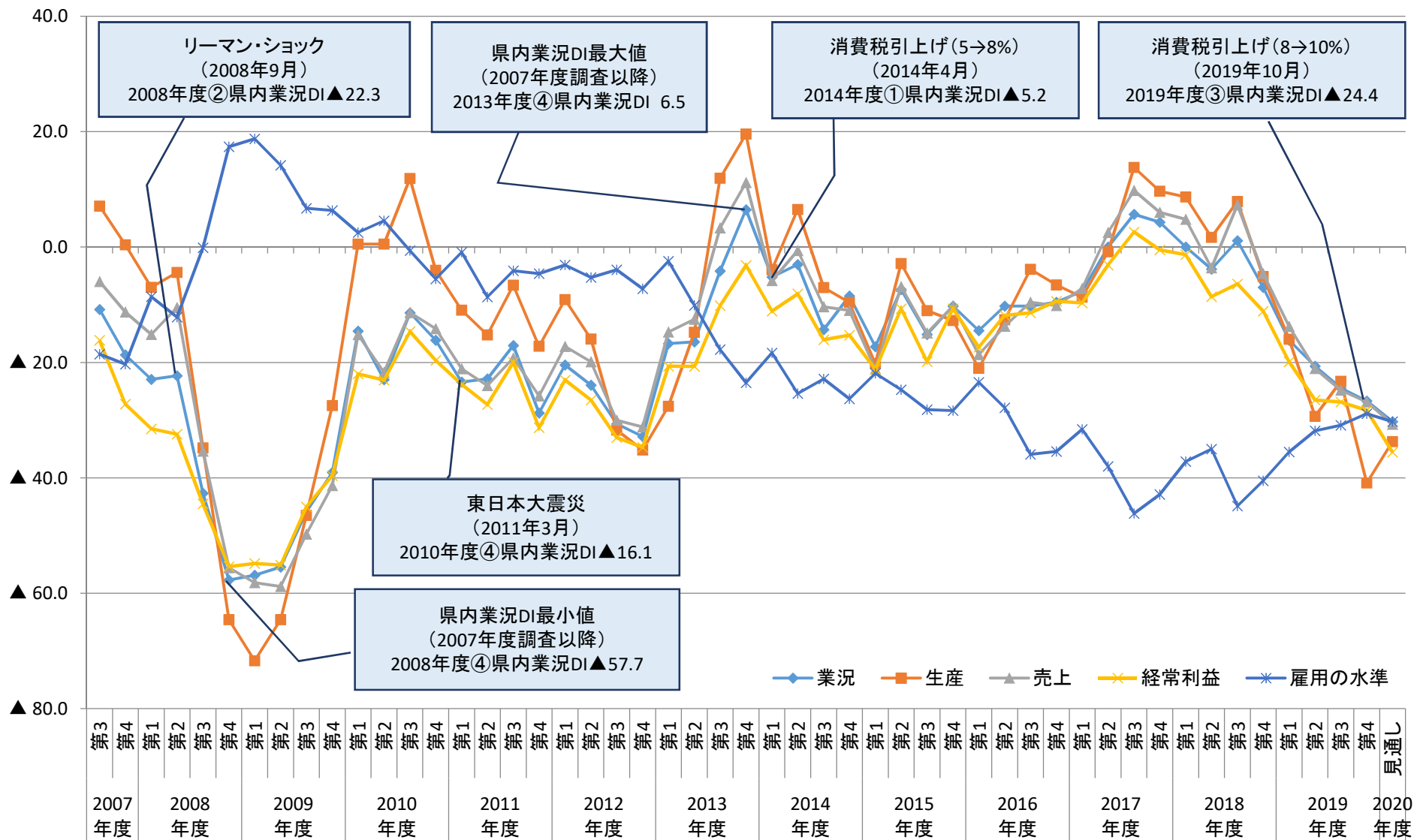
Ⅱ .DIの推移: 過去10年分

(2011年度第1四半期～2019年度第4四半期)

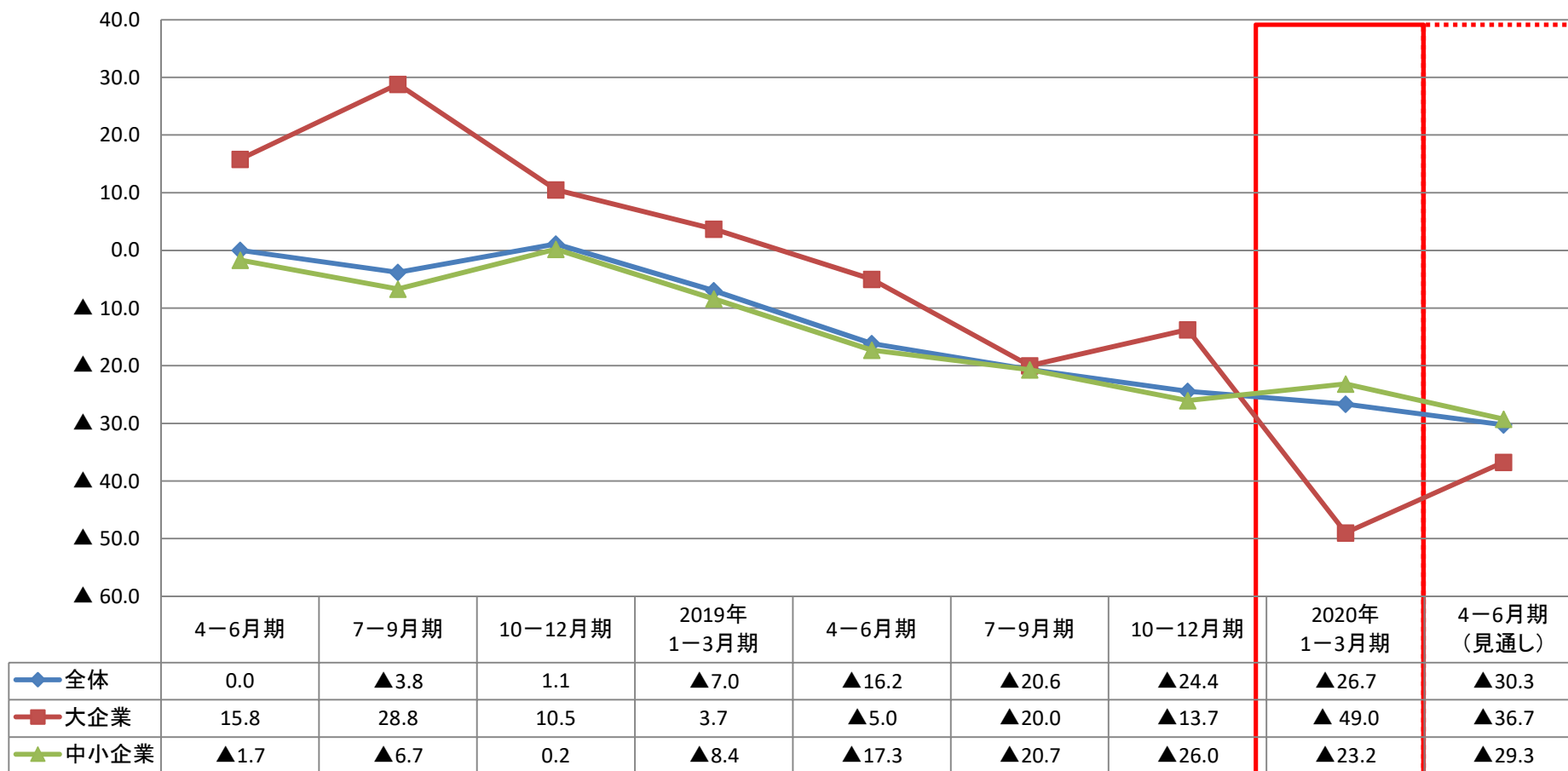


【参考】

Ⅱ.DIの推移:2007年度第3四半期～2019年度第4四半期

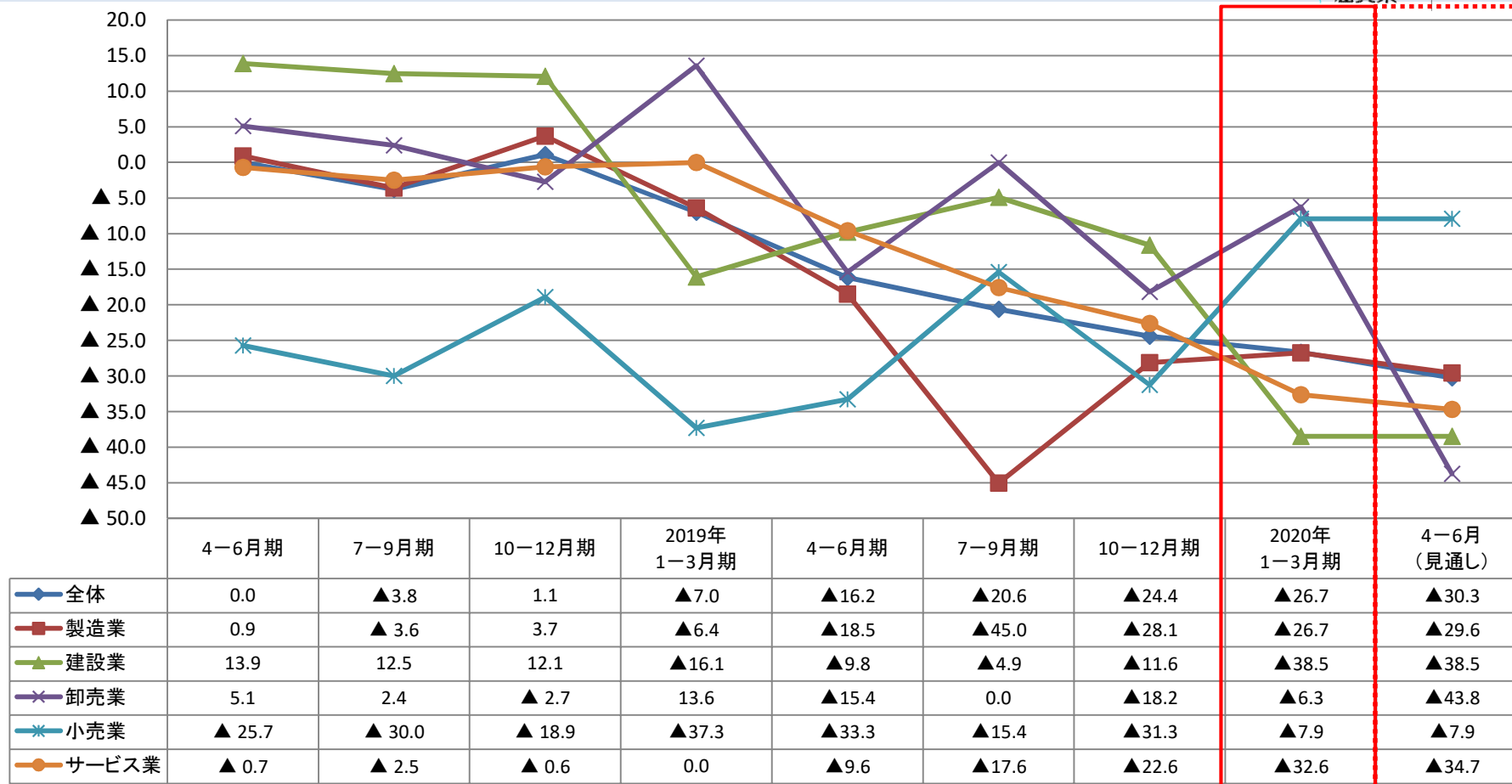


Ⅱ. 企業規模別業況の動き(実績)と来期の見通し



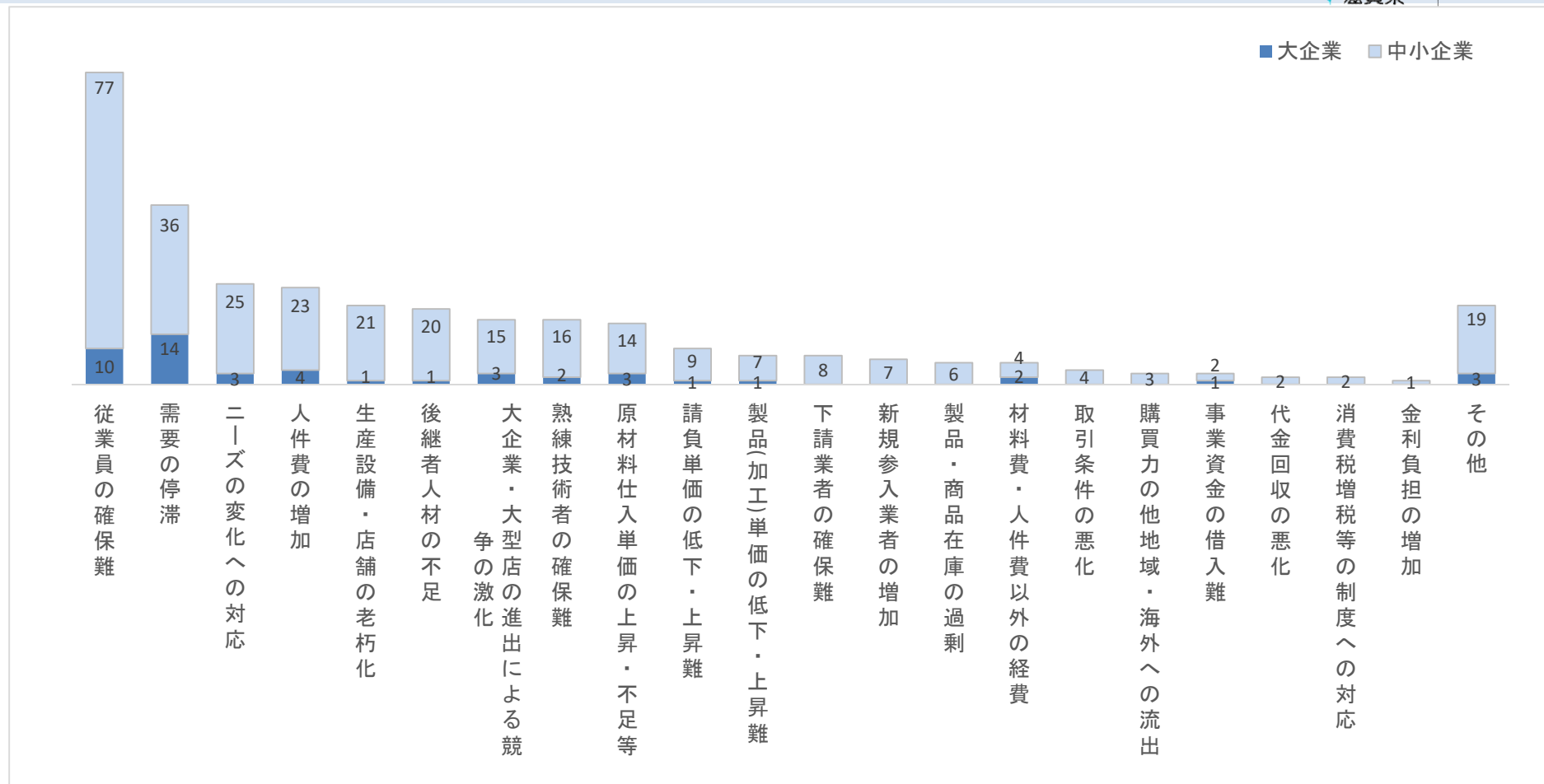
- ・全体の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・大企業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・中小企業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅱ.業種別業況の動き(実績)と来期の見通し



- ・製造業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・建設業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べ変わらない見通し。
- ・卸売業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・小売業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べ変わらない見通し。
- ・サービス業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

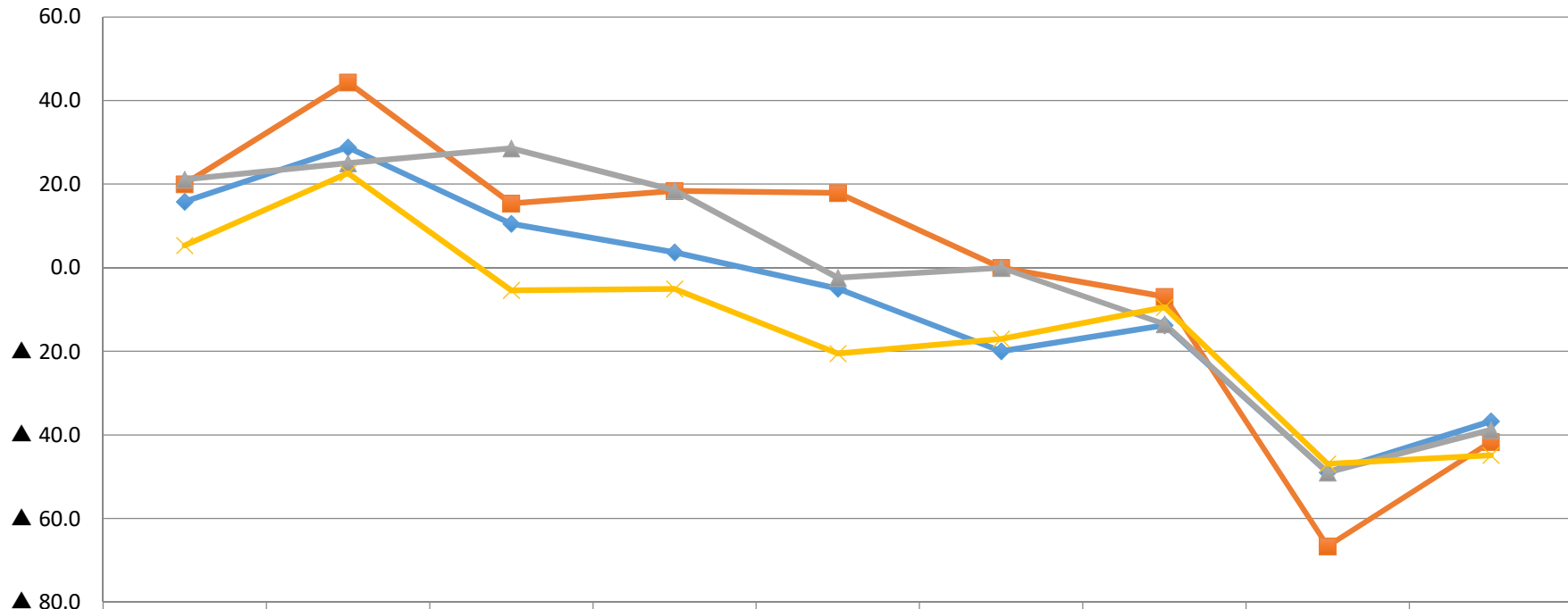
Ⅱ.経営上の問題点



- ・全体:「従業員の確保難」が最多となっており、「需要の停滞」「ニーズの変化への対応」の順となっている。
- ・大企業:「需要の停滞」が最多となっており、「従業員の確保難」「人件費の増加」の順となっている。
- ・中小企業:「従業員の確保難」が最多となっており、「需要の停滞」「ニーズの変化への対応」の順となっている。

Ⅲ.【大企業】①

業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し

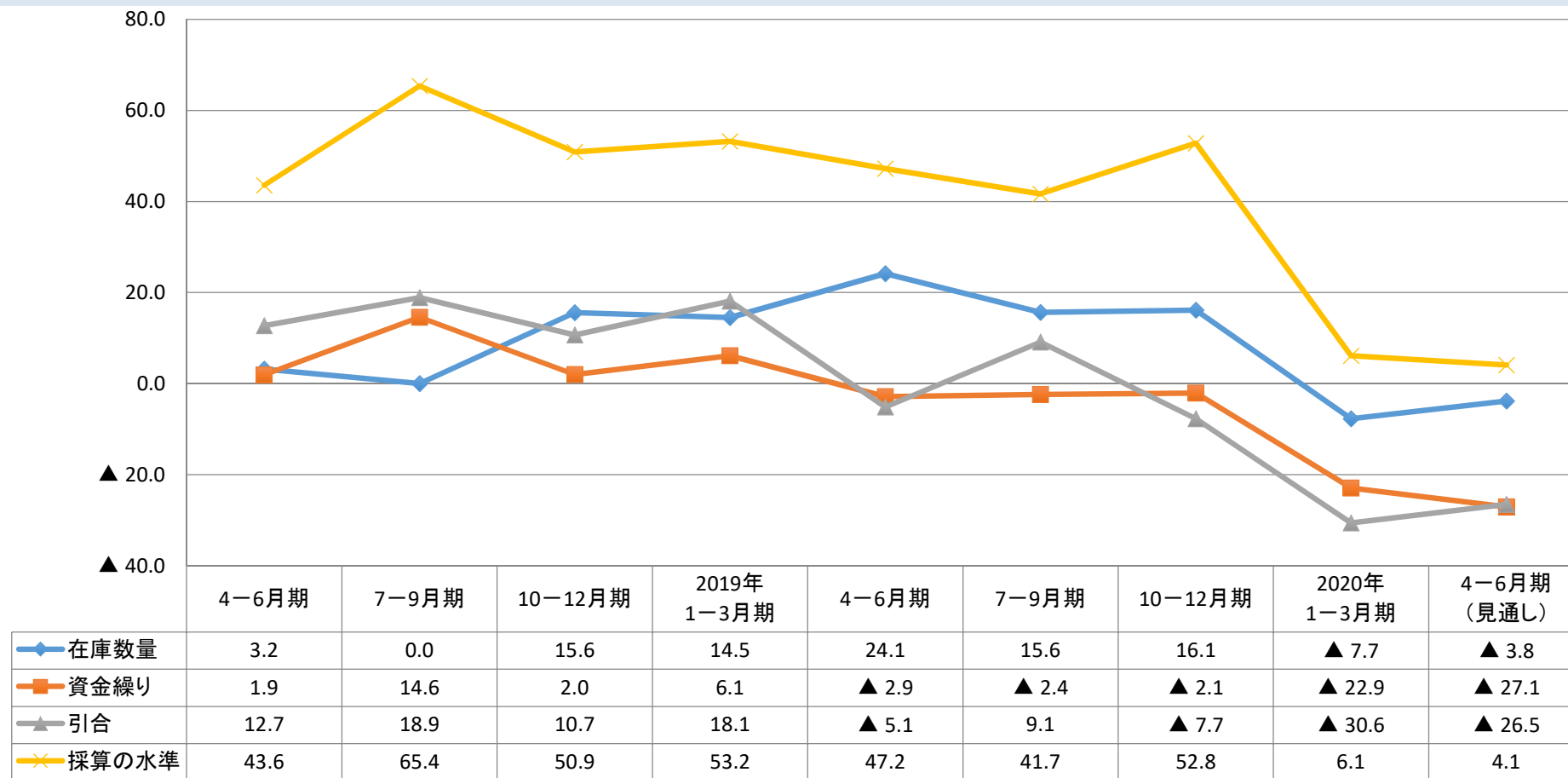


	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2019年 1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2020年 1-3月期	4-6月期 (見通し)
◆ 業況	15.8	28.8	10.5	3.7	▲ 5.0	▲ 20.0	▲ 13.7	▲ 49.0	▲ 36.7
■ 生産	20.0	44.4	15.4	18.4	17.9	0.0	▲ 6.9	▲ 66.7	▲ 41.7
▲ 売上	21.1	25.0	28.6	18.5	▲ 2.4	0.0	▲ 13.5	▲ 49.0	▲ 38.8
✕ 経常利益	5.3	22.6	▲ 5.4	▲ 5.1	▲ 20.5	▲ 17.0	▲ 9.4	▲ 46.9	▲ 44.9

- ・業況DIは▲49.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲36.7と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・生産DIは▲66.7と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲41.7と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・売上DIは▲49.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲38.8と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・経常利益DIは▲46.9と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲44.9と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【大企業】②

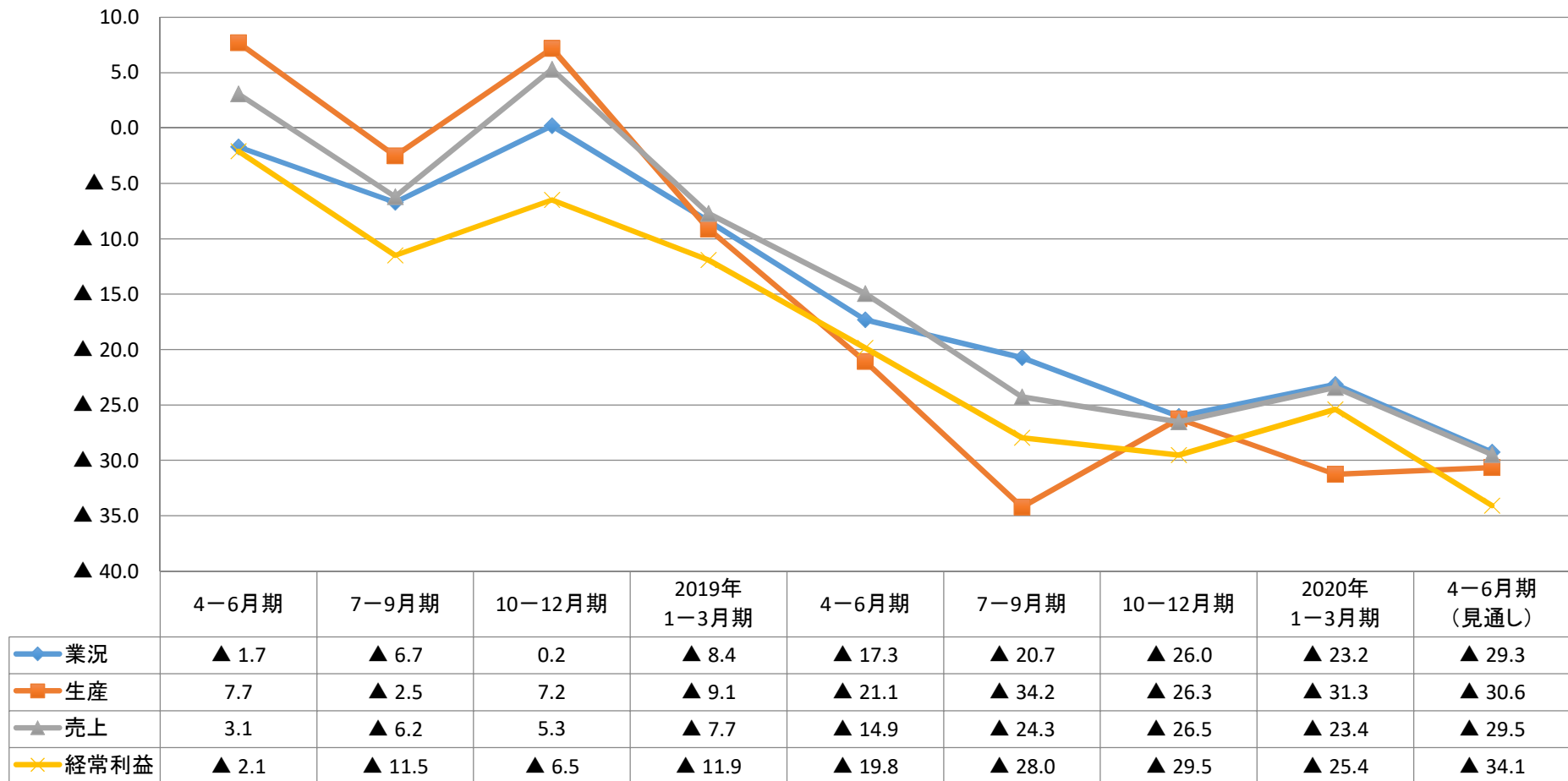
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲7.7と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲3.8と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・資金繰りDIは▲22.9と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲27.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲30.6と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲26.5と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・採算の水準DIは6.1と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は4.1と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【中小企業】①

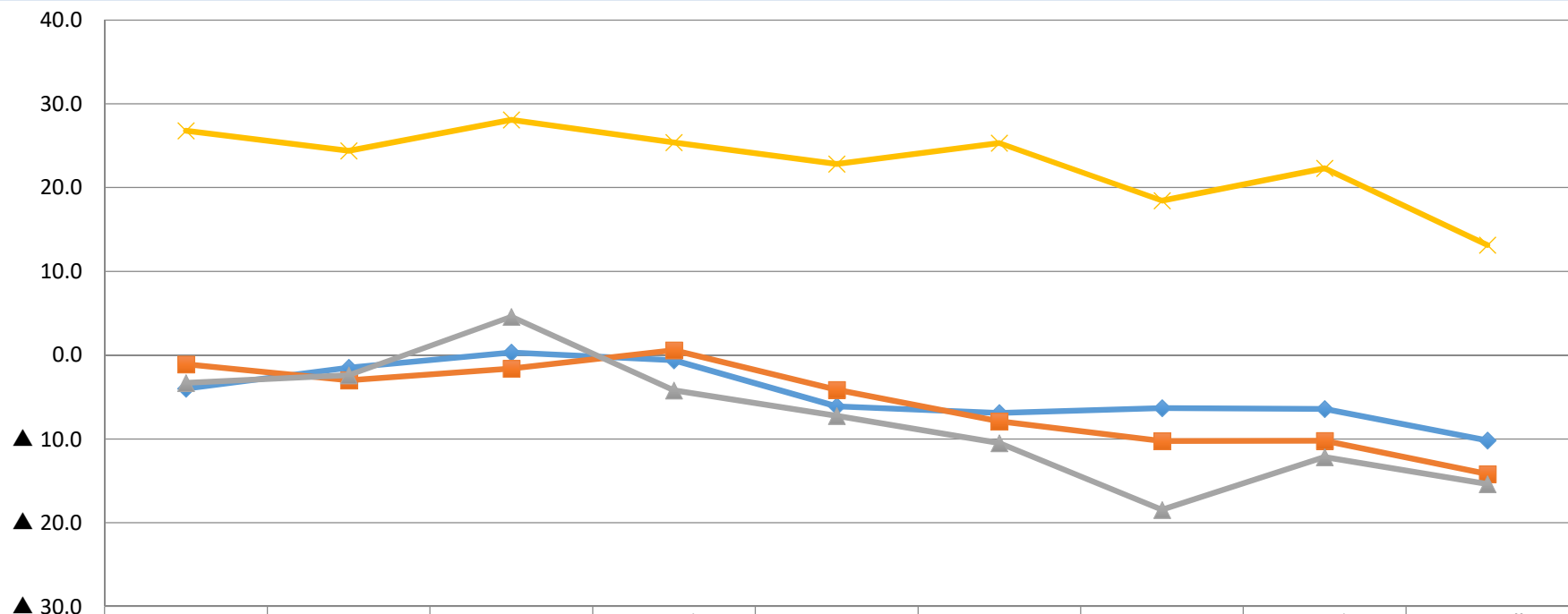
業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲23.2と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲29.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・生産DIは▲31.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲30.6と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・売上DIは▲23.4と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲29.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲25.4と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲34.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【中小企業】②

在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し

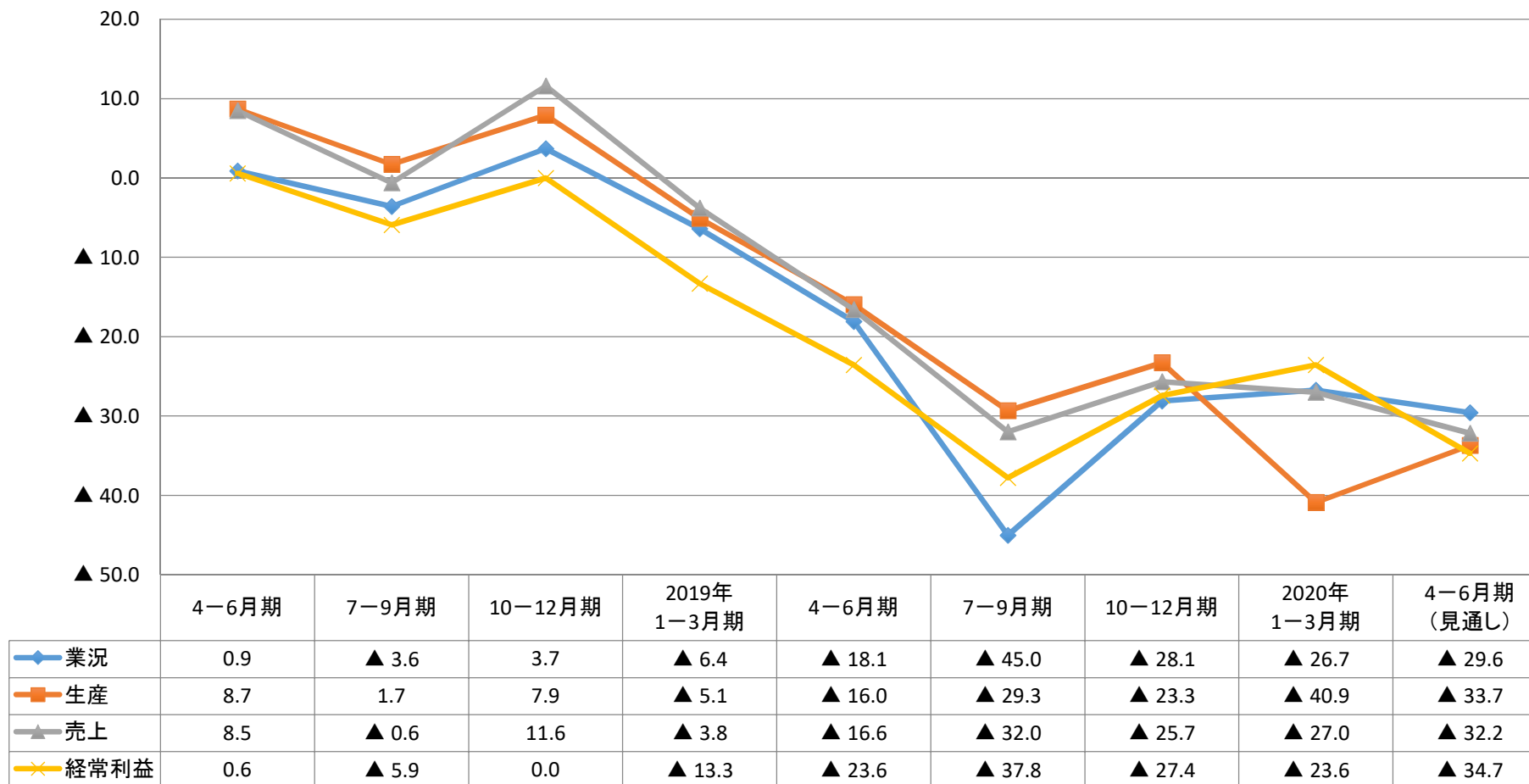


	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2019年 1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2020年 1-3月期	4-6月期 (見通し)
◆ 在庫数量	▲ 4.0	▲ 1.5	0.3	▲ 0.6	▲ 6.1	▲ 6.9	▲ 6.3	▲ 6.4	▲ 10.2
■ 資金繰り	▲ 1.1	▲ 3.0	▲ 1.6	0.6	▲ 4.1	▲ 7.9	▲ 10.3	▲ 10.2	▲ 14.2
▲ 引合	▲ 3.3	▲ 2.4	4.6	▲ 4.2	▲ 7.3	▲ 10.5	▲ 18.5	▲ 12.2	▲ 15.4
✕ 採算の水準	26.8	24.4	28.1	25.4	22.8	25.3	18.5	22.3	13.1

- ・在庫数量DIは▲6.4と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲10.2と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲10.2と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲14.2と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲12.2と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲15.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは22.3と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は13.1と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【製造業】①

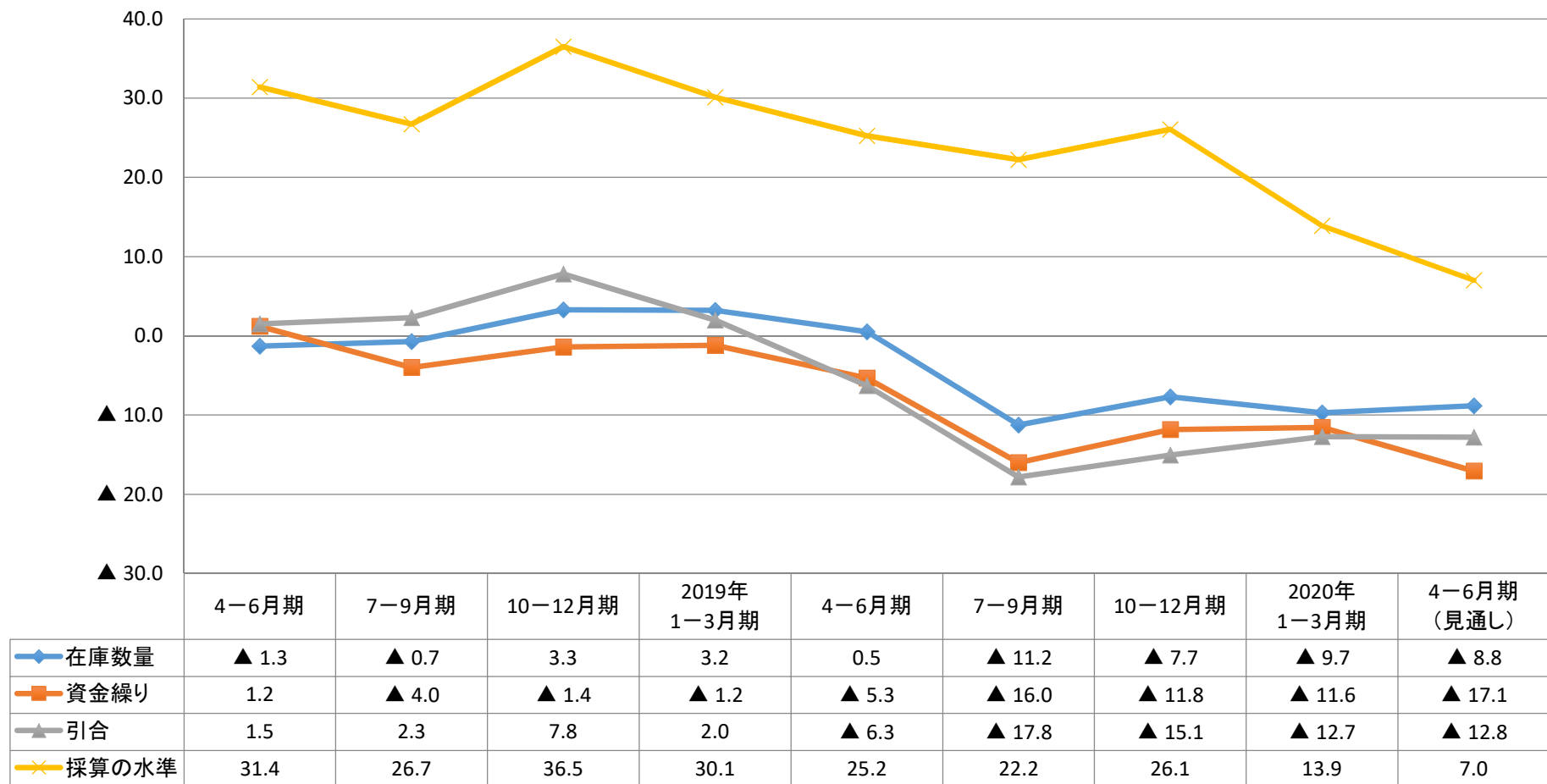
業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲26.7と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲29.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・生産DIは▲40.9と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲33.7と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・売上DIは▲27.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲32.2と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲23.6と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲34.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【製造業】②

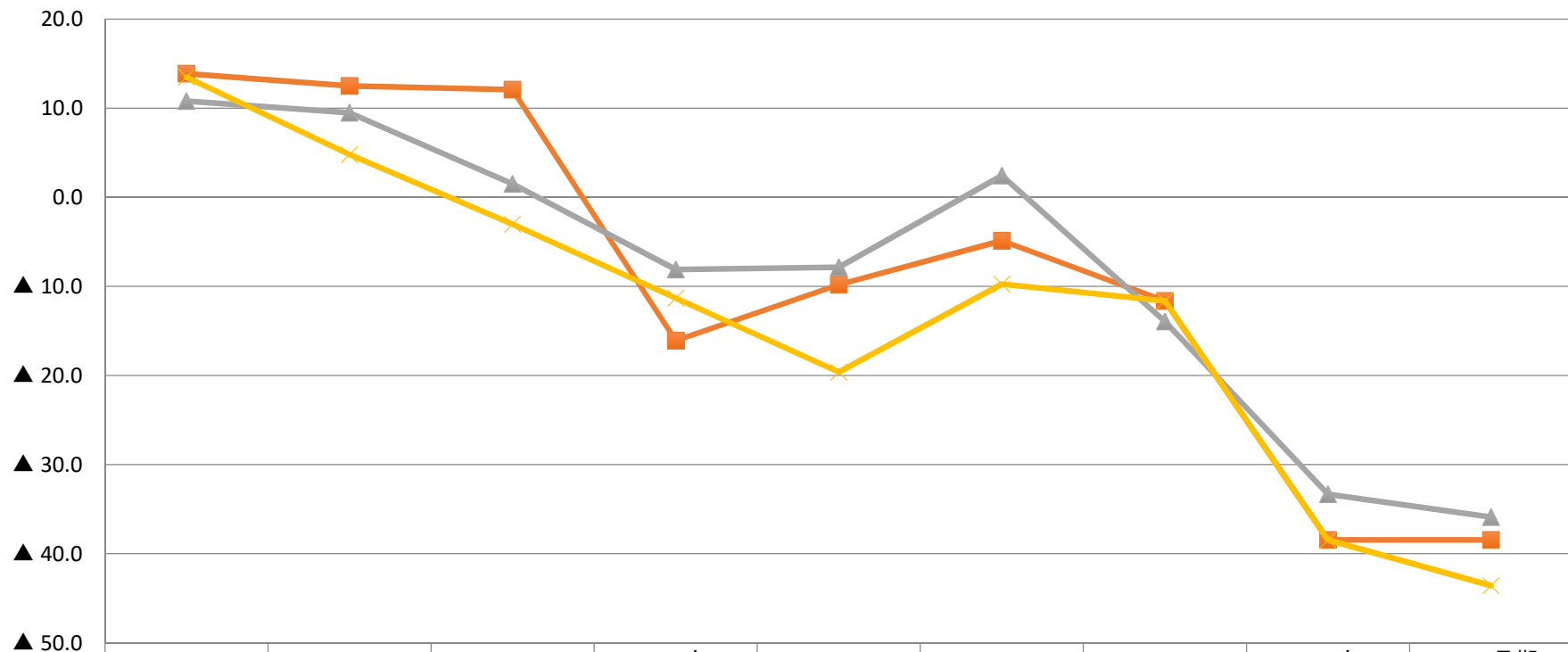
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲9.7と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲8.8と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・資金繰りDIは▲11.6と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲17.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲12.7と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲12.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは13.9と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は7.0と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【建設業】①

業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し

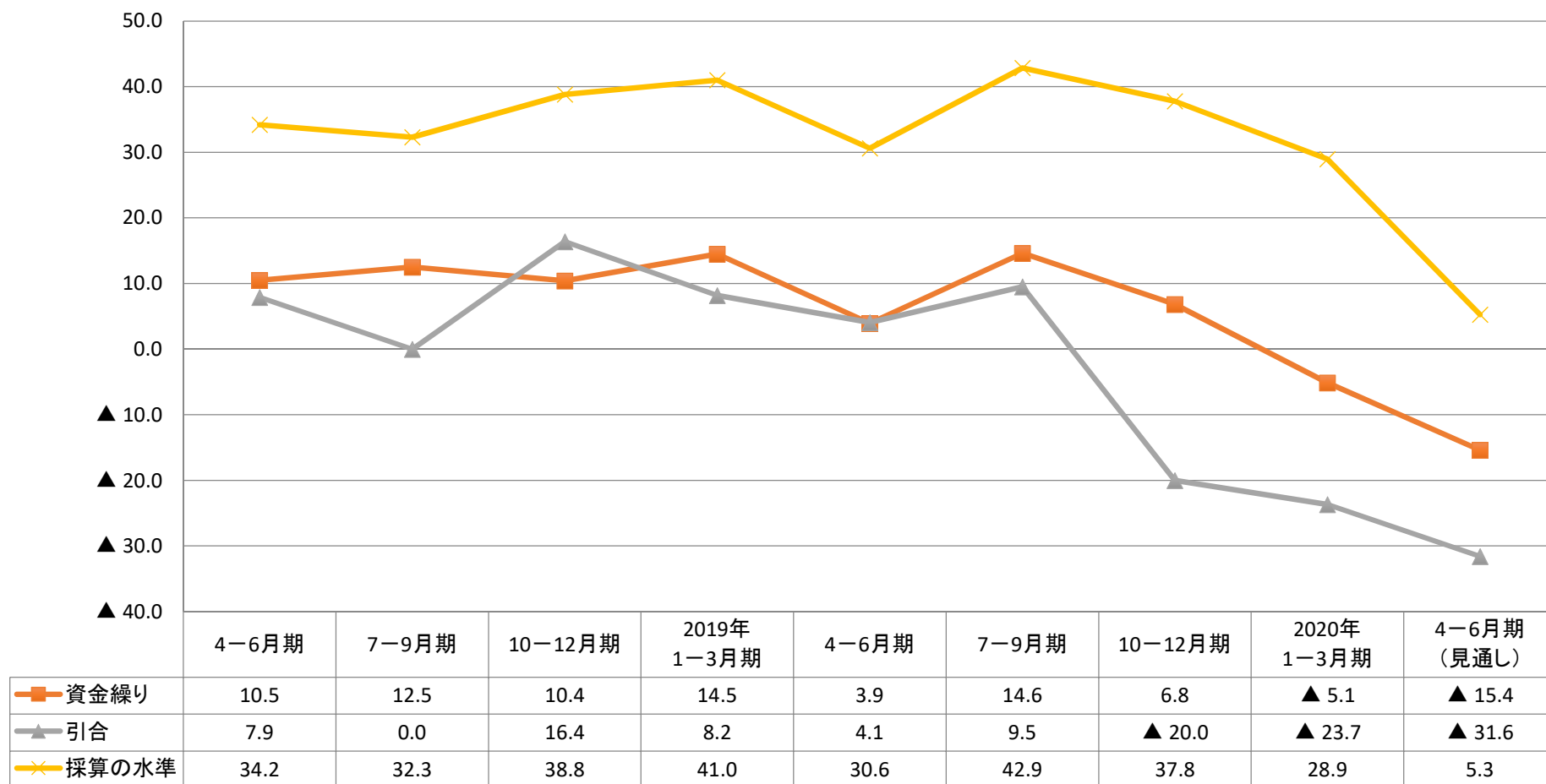


	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2019年 1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2020年 1-3月期	4-6月期 (見通し)
■ 業況	13.9	12.5	12.1	▲ 16.1	▲ 9.8	▲ 4.9	▲ 11.6	▲ 38.5	▲ 38.5
▲ 売上	10.8	9.5	1.5	▲ 8.1	▲ 7.8	2.4	▲ 14.0	▲ 33.3	▲ 35.9
× 経常利益	13.5	4.8	▲ 3.0	▲ 11.3	▲ 19.6	▲ 9.8	▲ 11.6	▲ 38.5	▲ 43.6

- ・業況DIは▲38.5と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲38.5と、今期に比べ変わらない見通し。
- ・売上DIは▲33.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲35.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲38.5と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲43.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【建設業】②

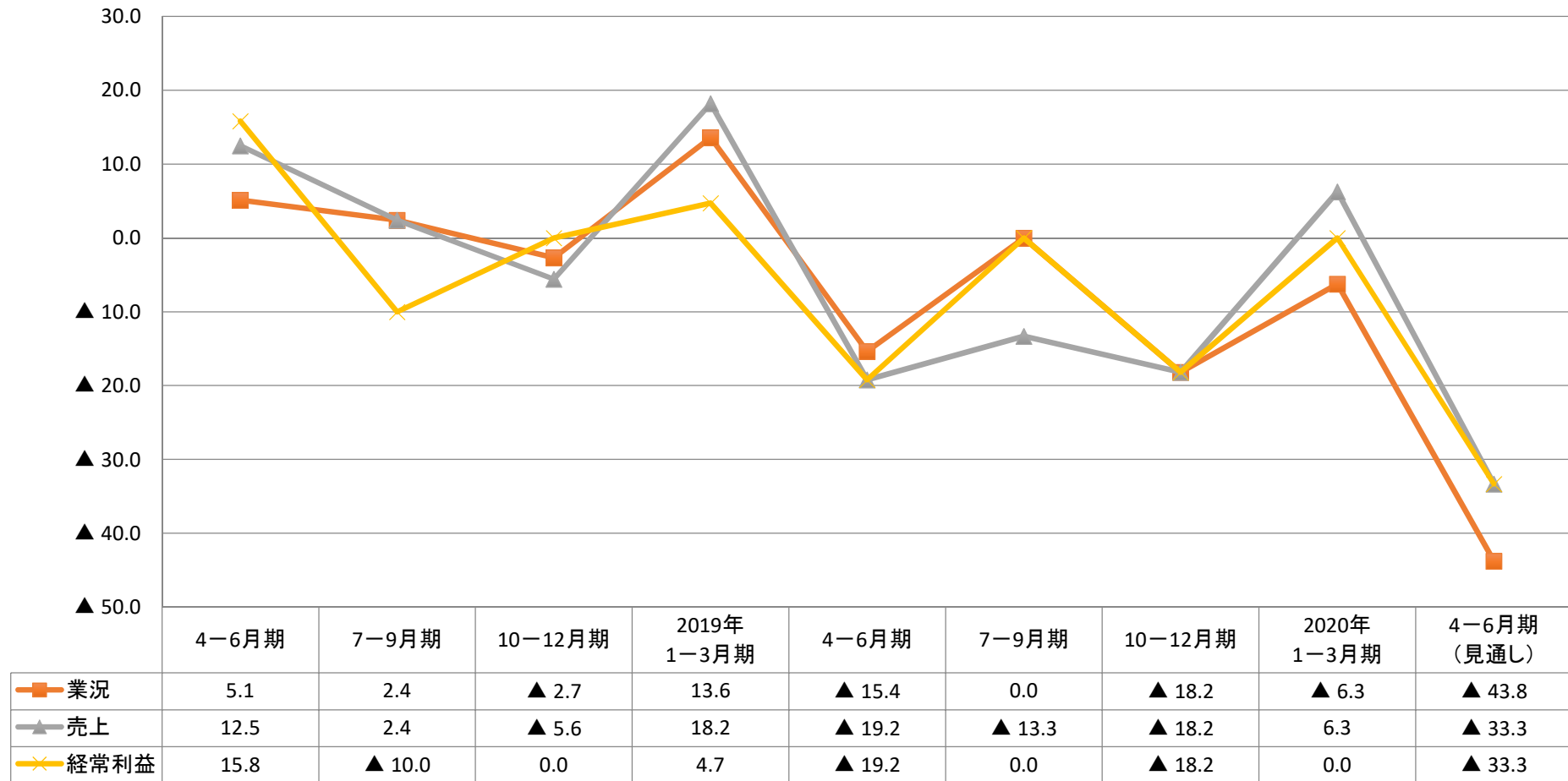
資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・資金繰りDIは▲5.1と、前期に比べプラスからマイナスへ転じた。来期は▲15.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲23.7と、前期に比べマイナス幅が拡大する。来期は▲31.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは28.9と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は5.3と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【卸売業】①

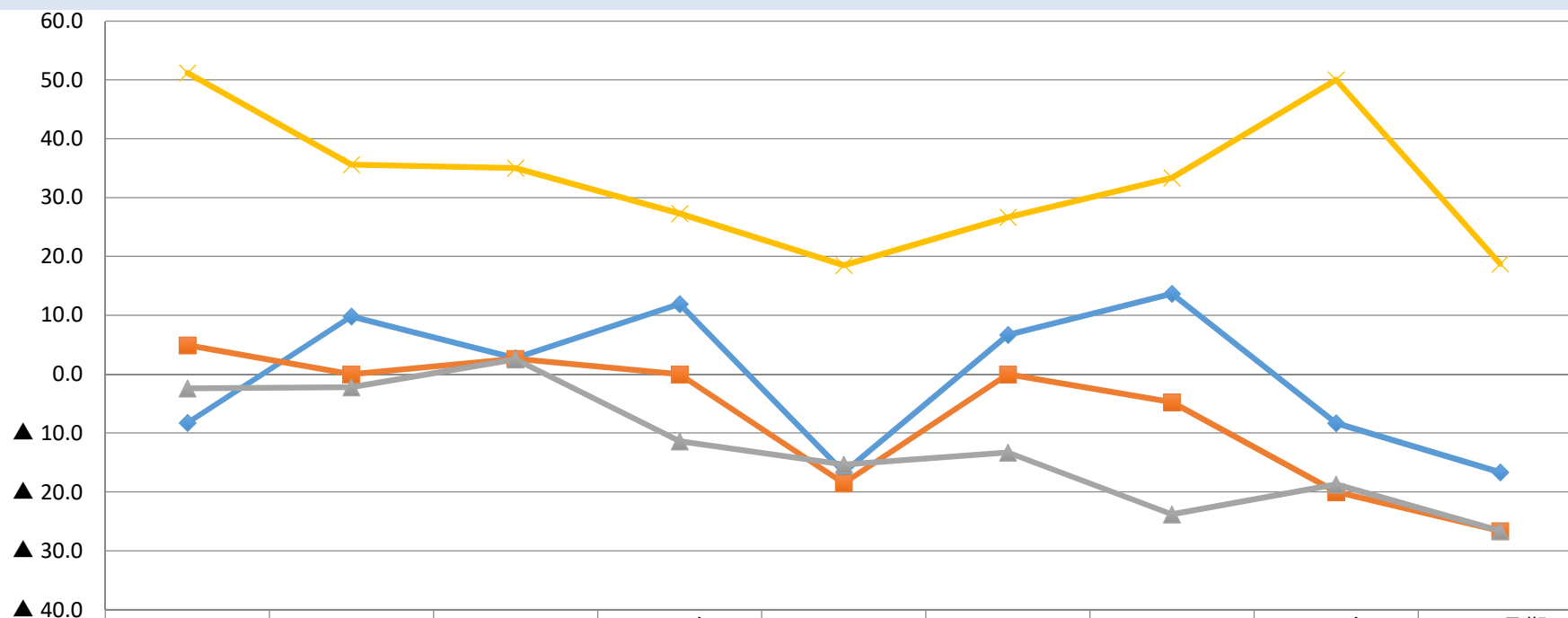
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲6.3と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲43.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは6.3と、前期に比べマイナスからプラスへ転じた。来期は▲33.3と、今期に比べプラスからマイナスへ転じる見通し。
- ・経常利益DIは0.0と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲33.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【卸売業】②

在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し

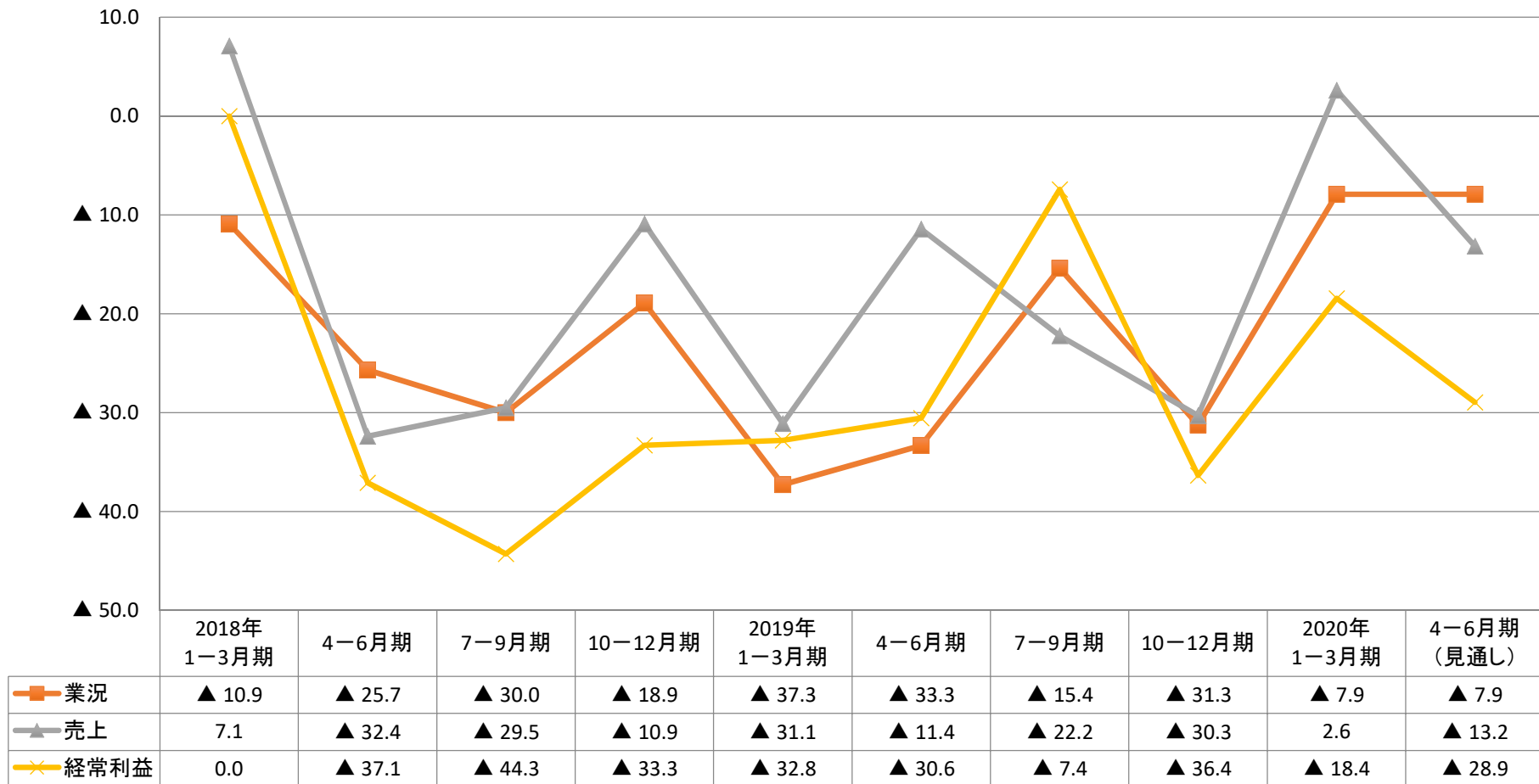


	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2019年 1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2020年 1-3月期	4-6月期 (見通し)
◆ 在庫数量	▲ 8.3	9.8	2.7	11.9	▲ 16.7	6.7	13.6	▲ 8.3	▲ 16.7
■ 資金繰り	4.9	0.0	2.6	0.0	▲ 18.5	0.0	▲ 4.8	▲ 20.0	▲ 26.7
▲ 引合	▲ 2.4	▲ 2.2	2.5	▲ 11.4	▲ 15.4	▲ 13.3	▲ 23.8	▲ 18.8	▲ 26.7
✕ 採算の水準	51.2	35.6	35.0	27.3	18.5	26.7	33.3	50.0	18.8

- ・在庫数量DIは▲8.3と、前期に比べプラスからマイナスへ転じた。来期は▲16.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲20.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲26.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲18.8と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲26.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは50.0と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は18.8と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【小売業】①

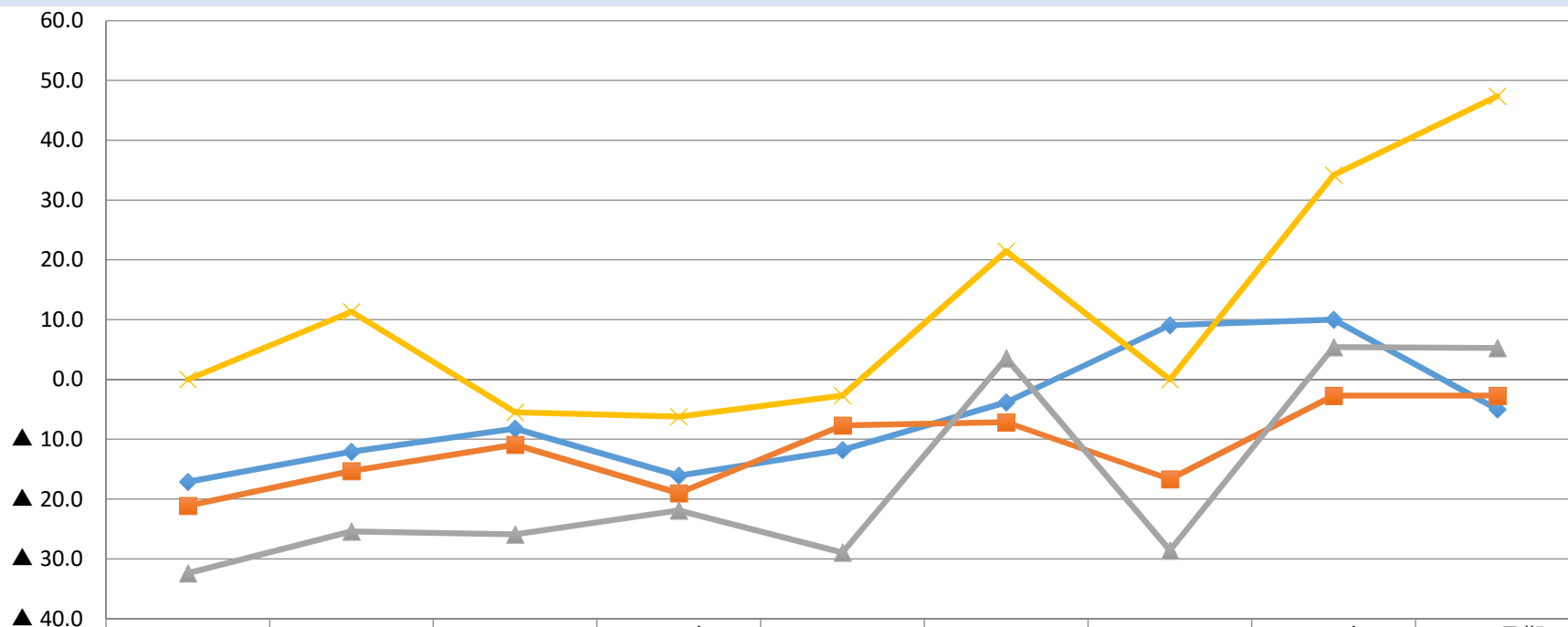
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲7.9と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲7.9と、今期に比べ変わらない見通し。
- ・売上DIは2.6と、前期に比べマイナスからプラスへ転じた。来期は▲13.2と、今期に比べプラスからマイナスへ転じる見通し。
- ・経常利益DIは▲18.4と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲28.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【小売業】②

在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し

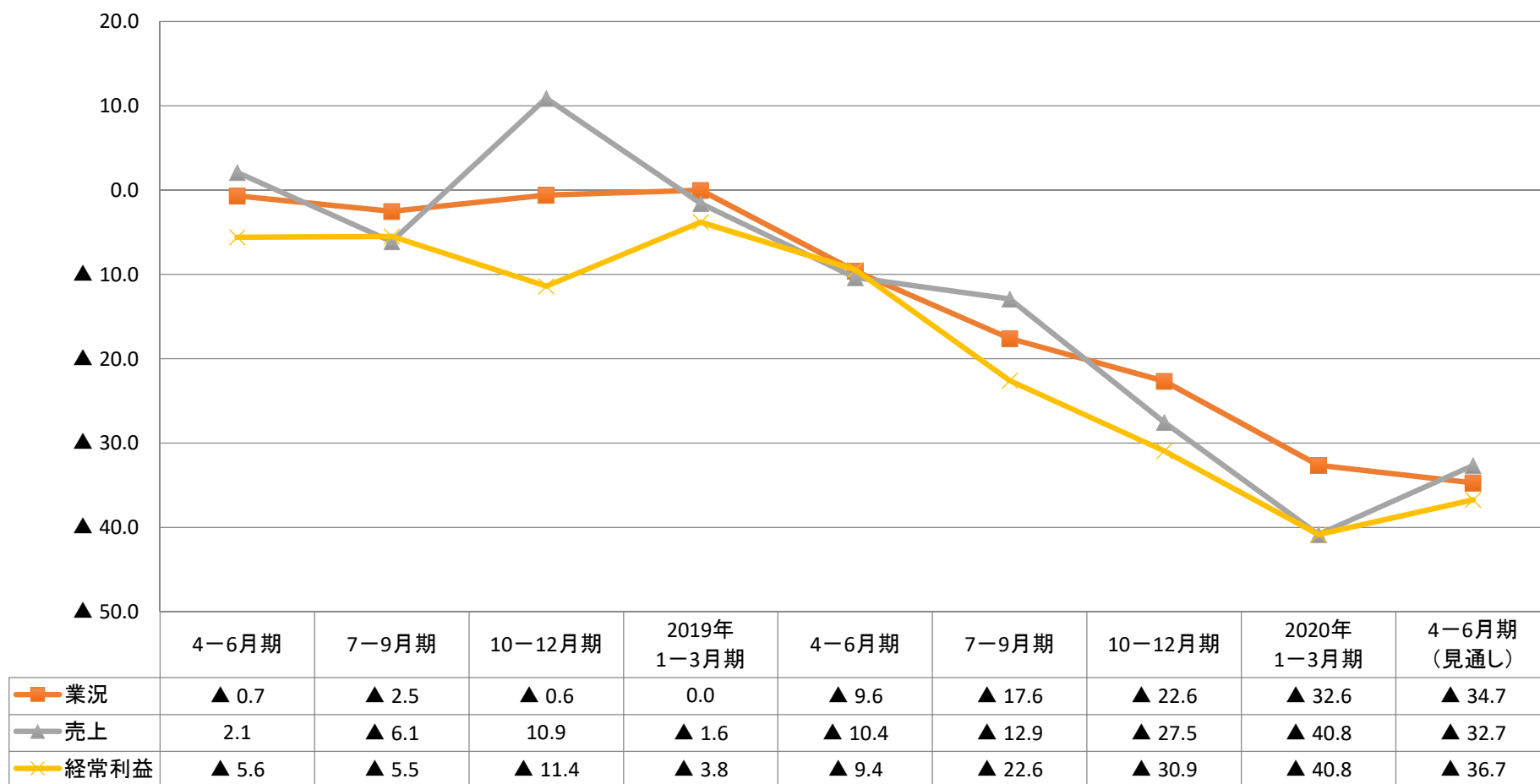


	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2019年 1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2020年 1-3月期	4-6月期 (見通し)
在庫数量	▲ 17.1	▲ 12.1	▲ 8.2	▲ 16.1	▲ 11.8	▲ 3.8	9.1	10.0	▲ 5.0
資金繰り	▲ 21.1	▲ 15.3	▲ 10.9	▲ 19.0	▲ 7.7	▲ 7.1	▲ 16.7	▲ 2.7	▲ 2.7
引合	▲ 32.4	▲ 25.4	▲ 25.9	▲ 21.9	▲ 28.9	3.6	▲ 28.6	5.4	5.3
採算の水準	0.0	11.3	▲ 5.5	▲ 6.2	▲ 2.7	21.4	0.0	34.2	47.4

- ・在庫数量DIは10.0と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は▲5.0と、今期に比べプラスからマイナスへ転じる見通し。
- ・資金繰りDIは▲2.7と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲2.7と、今期に比べて変わらない見通し。
- ・引合DIは5.4と、前期に比べマイナスからプラスへ転じた。来期は5.3と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。
- ・採算の水準DIは34.2と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は47.4と、今期に比べプラス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【サービス業】①

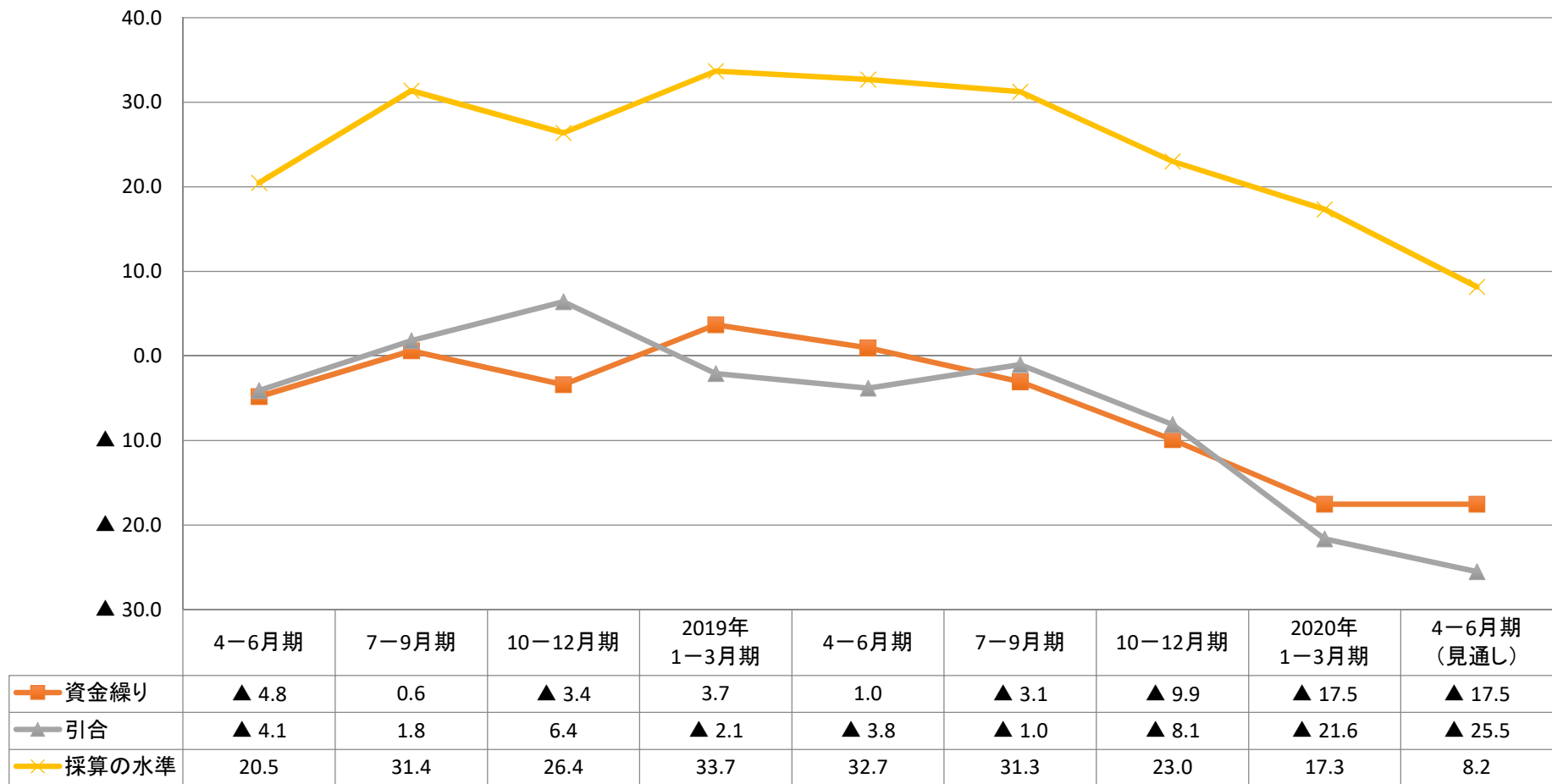
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲32.6と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲34.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲40.8と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲32.7と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・経常利益DIは▲40.8と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲36.7と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【サービス業】②

資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・資金繰りDIは▲17.5と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲17.5と、今期に比べ変わらない見通し。
- ・引合DIは▲21.6と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲25.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは17.3と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は8.2と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

IV.回答企業のコメント



【プラスの判断をした企業】

- ・景気の悪化が如実化している。自社による対策がどこまで悪化影響に対応できるかが不安である。（食料品製造業）
- ・価格改定を行い、現状の利益確保が昨年より出来ている。（金属製品製造業）
- ・人材不足だが発注が後を絶たず、増加傾向である。（その他サービス業）
- ・営業利益は増加傾向にあるが、採算が悪く赤字になる可能性が高い。（その他サービス業）

【マイナスの判断をした企業】

- ・新型コロナウイルスにより中国経済の減速と、米中貿易摩擦による影響で国内設備が延期及び中止され、先行が不透明である。（金属製品製造業）
- ・新型コロナウイルスの影響により、中国子会社の稼働日数が低下している。（金属製品製造業）
- ・米中貿易摩擦、消費増税、新型コロナウイルス等様々な要因によるものと思われる。（道路貨物運送業）
- ・新型コロナウイルスの為、予約の減少およびキャンセルの発生。（宿泊業）
- ・暖冬の為、冬物商品が売れない。（燃料小売業）
- ・中国景気悪化の影響で生産、売上とも停滞中。（金属製品製造業）
- ・得意先からの受注が大幅減。（金属製品製造業）
- ・原材料値上げの影響が大きい。（印刷・同関連業）

【その他】

- ・新型コロナウイルスの影響により、生産増の見込みのものもあるが、全体的には停滞すると予想。（金属製品製造業）
- ・米中貿易摩擦、中国景気悪化を主因とする電子部品の世界市場悪化の影響は継続中。現時点では受注、売上ともに横ばいから微増の見通し。（金属製品製造業）
- ・新型コロナウイルスの影響で中国仕入先の稼働開始が遅れが不安要素。（機械器具卸売業）
- ・県内客先の設備投資が減っている影響で売上が減少。（機械器具建設業）